
瑠璃も玻璃も照らせば光る

ねめしす7段

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

瑠璃も玻璃も照らせば光る

【Nコード】

N3184Y

【作者名】

ねめしす7段

【あらすじ】

魔法が上手く扱えない心優しき少年、兄を慕っているが暴言ばかり浴びせてしまう妹、魔法の天才で若干腹黒い生徒会会長、剣を扱わせれば右に出るものはいないといわれる生徒会副会長、魔法具を作る事に長ける物静かな天才少女。これはそんな5人が織りなす物語である。

プロローグ（前書き）

この度、小説を執筆させていただきまます。ねめしす7段と申します。稚拙で幼稚な展開や文面になるかもしれませんが、温い目でご覧下さいませ

プロローグ

今から約2年と8か月前、世界的に有名な魔法使いを輩出している世界有数の魔法学園『リースカーダ』に僕は入学した。魔法は使えないが貴族である為、僕は両親から強制的に各国のエリートたちがこぞって入学するリースカーダに入れられた訳だが、その学園生活は筆舌しがたいものだった。

無視や暴力は当たり前、魔法が使えないという理由で攻撃魔法の授業では動物的として扱われ、一生残るような傷を目に見える場所以外にことごとく刻みつけられた。誰一人助けにくれず、終いには妹にまで蔑まれる毎日。人間の恐ろしさを身体に心に感じ、今では人と一定の距離を保たなければ、身体の震えが止まらない。

悔しかった。魔法が使えないだけで、裏口入学した訳でもない。入学時の戦闘能力を測る試験だって学年で一番良かった。正直なるとか

やっていけそうだと思っていた……のにこの様はなんなのだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3184y/>

瑠璃も玻璃も照らせば光る

2011年11月7日17時10分発行